

## 第2回 荒尾市地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

日時：平成24年 7月11日(水) 午後2時00分～午後3時40分

場所：荒尾総合文化センター 2階 会議室1・2

出席者：地域公共交通活性化協議会委員 33名(内代理出席者 6名)

城戸秀徳氏(産交バス(株) 玉名営業所長(代理 宮島雅彦氏)) 福澤好展氏(西鉄バス大牟田(株) 代表取締役)

山代秀徳氏((有)荒尾タクシー 代表取締役) 荒平幸氏((有)有明タクシー 総支配人)

江頭正昭氏((有)みつわタクシー 代表取締役) 西浦聖二氏(平和タクシー(有) 代表取締役)

平尾憲二氏((有)野原タクシー 代表取締役(代理 永岡征一郎氏))

杉野勝典氏(熊本県タクシー協会事務局長) 貢博之氏(全九州産業交通労働組合 書記長)

坂元靖秀氏(国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所 調査第二課長)

坂本智典氏(熊本県玉名地域振興局土木部 維持管理課長)

田代眞也(荒尾市建設経済部 土木課長(代理 大神康孝)) 山口二郎氏(荒尾警察署長(代理 原口法信氏))

桑島隆一氏(九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官(輸送・監査担当)(代理 傳勝博氏))

福田和寛氏(荒尾地区協議会 会長) 河部啓宣氏(万田地区協議会 会長)

田中一大氏(万田中央地区協議会 会長) 深浦光進氏(井手川地区協議会 深瀬倉掛公民館長)

坂田為行氏(中央地区協議会 新生区公民館主事) 三露洋介氏(緑ヶ丘地区協議会 会長)

森田英之氏(平井地区協議会 会長) 尾上信秋氏(府本地区協議会)

高浜紘氏(八幡地区協議会 菰屋南・北区長) 田中恭一氏(有明地区協議会 幹事)

宮丸豊氏(清里地区協議会 高浜区長) 吉富修氏(桜山地区協議会 会長)

那須良介氏(荒尾商工会議所 会頭) 山崎義勝氏(荒尾市老人クラブ連合会 会長)

斎浩史氏(荒尾市身体障害者福祉協会連合会 会長) 進藤健介氏(一般社団法人荒尾市観光協会 専務理事)

小原信氏(熊本県企画振興部交通政策・情報局交通政策課 審議員) 山崎史郎(荒尾市 副市長)

欠席者：審議会委員 5名

野田正俊氏(西鉄グループバス労働組合 執行委員長)、新居唯一氏(熊本県バス協会 専務理事)、重光重信氏(熊本県自動車交通労働組合 書記長)、古川浩之氏(九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官(企画調整担当))、溝上章志氏(熊本大学工学部 教授)

事務局：【荒尾市】 浅田政策企画課長、小川福祉課長、石川政策企画課長補佐兼政策経営室長、原口参事

《内容》

### 1. 開会

浅田政策企画課長により、委員参加が過半数を超え、本日の協議会が成立している旨報告がなされ、開会を宣言した。

## 2. 会長挨拶

本協議会の会長を務める山崎副市長より挨拶が行われた。

前回の協議を踏まえ、本日は、本市における公共交通の課題の捉え方や方向性についてご意見を頂き、また、今後市内12地区において地域座談会を開催し、住民の皆さんからの直接生活や公共交通に関して様々な意見を伺い、本市における公共交通体系を検討していきたいと考える。

## 3. 協議事項

### (1) 前回の議事録確認について

浅田政策企画課長から、第1回荒尾市地域公共交通活性化協議会の議事録の内容については、修正等の意見は無かった旨報告がなされ、及び、全会一致で内容が承認された。また、本協議会の議事録については、ホームページへ掲載することが提案され、承認が得られた。

尚、前回の議事の際に、指摘があった医療機関における送迎の状況について、荒尾医師会の協力を得て、無記名式のアンケートを行い、47医療機関中35医療機関から回答があり、そのうち7医療機関から送迎を行っているとの回答がなされた旨報告がなされた。

### (2) 荒尾市における地域公共交通の課題について

石川課長補佐から、資料2に基づき、荒尾市における地域公共交通の課題について説明がなされた。

#### 《主な意見》

○平成15年以降、急速な利用者減少となったが、今後については、どのような状況になると考えるのか。また、運賃等の見直しなどは行っているのか。

併せて、公共交通に関する窓口はどこが担当課となっているのか。

→一時期に比べると、利用者の減少のカーブは緩やかになり、横ばいに近づいているものの、現状も、毎年微減の状況にある。なお、利用者の減少率と運行欠損額は比例しておらず、最近では、人件費や燃料費の高騰などにより運行費用の伸び率は、急激に上昇しているが、運賃等の見直しは行っていない。公共交通については政策企画課が担当している。(事務局)

○市屋にある潮湯への乗り入れをぜひ検討してほしい。老人福祉センターとして利用していたときも、そのような意見が出ていた。

→潮湯については、築40年近く経過し天井の爆裂などがみられるなど、施設の老朽化に伴い、老人福祉センターにあった休憩室などは廃止し、最小限利用できる箇所のみ補修を行い潮湯として営業している状況である。

また、潮湯前のバス停を通る路線については、幹線で本数も多く大型バスもあり、現状では、入口の急傾斜の坂道の狭路を通行することは難しい状況である。(事務局)

○市民病院の玄関近くまでバスの乗り入れができないか検討してほしい。また、ステップが高く、バスに乗りづらいと聞いているが、現在の導入されているバスはどのようなものがある

のか。

→市民病院については、以前乗り入れを検討したことがあったが、市民病院前は、多くのバスが通る幹線であり、全てのバスの小型化は難しい状況である。バスを旋回させるスペースをとるためには、駐車スペースを削り、別に駐車スペースを設ける必要がある。(事務局)

○地域の実情に応じて新たな地域公共交通の導入についても検討するとなっているが、現状では、どのような理解でいけばいいのか？

→今後、地域座談会などを通じて現状を把握し、地域によっては、バス以外の交通手段についても検討する必要があると考えている。人口が集中している旧市街化区域と人口集積が低い以前の調整区域では、バスの本数などにも差があり、地域によってニーズが違ふと考ふる。現時点で導入する地域や新たな交通手段については想定していない。(事務局)

○バス路線の変更も検討するのであれば、新幹線の駅(新大牟田駅)と本市を結ぶ路線が無いので、検討してほしい。

→荒尾から玉名方面へのバス路線は、桜山線だけでも平日13便運行しており、玉名駅で乗り換えて、新玉名駅まで行っていただきたい。今後も、新幹線の利用状況などを勘案しながら検討していきたい。(事務局)

○今後、座談会を開催する中で、様々な要望が出てくると考ふるが、路線を運行した場合の収支計画などを踏まえて、今後どうするべきかを判断をしていく。

○バス事業への財政支援について、市はどの程度の支出を目安として考ふるのか。

○平成17年の市営バスから産交バスへの全部の路線を委譲した初年度の補助金3,600万円がひとつの目安となり考ふる。予算の制限の中で、どの程度満足度が得られるバス路線が組めるかを検討していきたい。バス路線を増やしたものの利用者が増加しなければ、赤字が増え補助額が増加するだけであり、同時に収支を検討する必要がある。

○合理化を進めた結果が現状の路線やダイヤであると考えており、地域座談会における住民ニーズを踏まえて、第3回の協議会においては、踏み込んだ今後の展開や具体策を示すべきだ。  
→住民座談会においては費用負担についても、住民の声を拾っていきたく考ふる。次回は、住民座談会の結果なども踏まえ、市の方針をまとめ、総合連携計画のたたき台を示したい。(事務局)

○バス路線の維持に係る費用については、国から特別交付税として8割が交付されると記憶をしている。市は、バス路線の維持に係る費用について特別交付税の申請の際に算定して申請していないのか。

→特別交付税の申請時においては、バス路線の維持についても費用として算定している。算定の際の比率については、再度確認する。(事務局)

○特別交付税を受けているのであれば、市の純粋な費用負担は、2割にあたる1,500万円程度で済んでいると考える。バスの路線維持については、交通事業者も懸命に取り組んでおり、併せて、国の特別交付税の措置もあることを伝えるべきである。

○今後、地域座談会において多様な要望が出た場合、費用がかさむ場合もあると考えるが、どのくらい市が負担額できるのかを検討する際は、想定する利用者や、利用者の増加につながる取り組みの効果など、色々とシミュレーションをした上で、収支均衡についても勘案すべきである。

→市が負担できる額については、これから内容をつめていきたい。基本的な考え方として、路線バスを中心とした交通体系の構築を進めていくこととしており、利用促進策についても検討したい。(事務局)

### (3) 地域座談会の開催について

石川課長補佐から、資料3に基づき、地域座談会の開催要領について説明がなされた。

#### 《主な意見》

○地域座談会の開催時間については、どのような経過で決定したのか。平日の昼間は一般的に参加が難しい時間帯である。

→地域座談会の開催については、各地域に相談しながら時間や場所について地域における集まりやすさを検討し決定した。ただ、会場の都合で希望どおり設定できなかったところもある。現在のバスの利用者は、高齢者が多数を占めており、高齢者が外出しやすい時間帯を選んでいる傾向が強い。(事務局)

○地域座談会の開催にあたり、地域で準備するものはないのか。

→必要なものは、こちらで準備し持参する。(事務局)

### (4) 他市における地域公共交通課題の改善事例について

政策企画課原口参事より説明がなされた。意見や質問などはなかった。

## 4. その他

次回の協議会開催予定は、10月を予定しており、開催期日が決まりしだい、通知する。

## 5. 閉会

山崎会長兼議長より第2回地域公共交通活性化協議会の閉会を宣言。